

町会だより 和和三丁目東町会

2016
正月号 I



新年ご挨拶

和和三丁目東町会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。暖かな晴天に恵まれて、お揃いで良いお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当町会の諸活動に、一方ならぬご支援を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

お蔭様で平成27年は大過なく平穏無事な一年となりました。平成28年も災害や事件のない平和な年となつて欲しいと心から祈念いたしております。

昨年10月には5年振りの国勢調査にあたり、町会役員の約半数が調査員に任命されて調査に参加しました。初めてインターネットでの調査票の回答を採用する等、時代に沿った進化も試されましたが、昔ながらの調査票の各個世帯への配布と回収にあたっては、私を含めて調査員の多くが「此処が自分の住んでいる街だろうか」という疎外感を持たれたのではないのでしょうか。

新築のオートロック式の集合住宅の、

表札のない部屋番号だけを頼りのインターネットでの遣り取りでは、どんな方がお住まいなのかは勿論、応答が無ければ、誰かが住んで居るのか否かも判りませんし、古い単身者アパートも表札は皆無で、郵便受けがチラシで溢れたままか、電気のメーターが止まったままかで、居住の有無を判定するしかないこと等々、担当した僅か2百メートル四方の調査区でこの現状に直面しました。この地域では世帯数は着実に増加していますが、残念ながら無縁社会化が一段と進みつつあることを痛感させられました。

町会加入8百世帯ほどの小規模な町会での無縁社会化は絶対に回避したいと考えて、6年前の真夏に多発した町会員の熱中症での救急搬送事件を契機に、ご高齢者の孤独死を出さないことと、首都直下型震災での災害弱者支援も兼ねた「見守り隊」を創設しました。

見守りを希望される町会員を、「見守り隊員」の町会役員と希望者本人と親しい近隣者の協力を得て、安否の確認と必

要な救急救命や避難サポートをする共助の仕組みです。毎年敬老の日の「長寿祝い」をお配りする時期に情報の更新をして今日に至っています。

東日本大震災の時は、見守り隊員は揺れが治まった直後に安否確認に訪問して、見守り希望者の皆さんから大変心強いと喜んで頂きました。以降は幸い大きな災害もなく、震災から間もなく5年が経過する中で、この「見守り隊」の近隣共助の仕組みの維持更新に際して、最近では若干緊張感が薄れて来たように感じます。

事態が起こった際に即座に機能出来る共助の「絆」は、関係者相互の温かみで真剣な思い遣りによって、自然な笑顔で挨拶が交わされる良好な地縁の醸成に努力しなければ生まれません。

新しい年の平穏無事を願いながらも、和和三丁目東町会のアンチ無縁社会の実現のために、この価値ある近隣共助の仕組みのメンテナンスに、引き続き緊張感を以て注力したいと思っておりますので、「見守り隊」の活動にご理解とご支援をお願いします。

末筆になりましたが、平成28年の町

会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成28年1月吉日
和和三丁目東町会
会長 志達 和雄

